

「ちょっと、この寒さはいったいなんなの？」

「ほんと。もう、たまらん」

「あたし、もう半分凍ってきたわ。地球温暖化って、南極だけじゃないの？」

「まったく、おれも首のあたりがしびれてきた」

「ねえ、あたしたち、三浦半島にいたときは、まさか 3 ヶ月後に、こんな樽に押し込められる運命とは知らなかったよねえ？ こんなのいやだあ、きゅうくつで、しょっぱくて」

「うん。たしか六本木のシェフが、サラダ用におしゃれに使ってくれるっていう話だった。おれ、あのおばさんの車に志願して乗って、バカみちゃったよ」

「あたしも。都会にあこがれてたのに。じゃあ、いっそのこと、反乱おこしてみない？」

「どうやって？」

「なにがなんでも、たくわんにならないって、がんばるのよ！」

「それもまた、きついなあ」

「あたし、それでいく！ たった 1 度の大根人生だもの、悔いなく生きなきゃ」

「おれ、どうしようかなあ」

今年のうちのたくわんは、2 月の上旬になってもまだ大根っぽくて、なかなか食卓にのらなかった。それで、塩水を足してみた。折りしも、外気温が急激にさがって、樽の上部と外側部分が凍りつき、100 本漬けたうちの半分が、たくわんになる前の段階で凍ってしまった。前代未聞の出来具合を考えていたら、どうしても上記のような結論に達した。